

## ＪＡ館林市の有機・減農薬の取り組みについて

昭和 49 年に『堆肥をたくさん投入すると、野菜がたくさん穫れるという。この組合員の経験を見習おう。』という内容の横断幕を館内 20 数箇所に設置し、土づくりの重要性を全野菜農家に訴えました。

当時から施設野菜では、連作を余儀なくされるために、土づくりには感心が高かったものの、路地野菜では、毎年作付け地が変わるため認識がやや低い傾向にありました。

しかし、これを契機に野菜農家の土づくりに対する意識が向上し、各自が堆肥作りに励み、また、有機質肥料主体の施肥を実践するようになりました。ＪＡも堆肥作りが出来ない農家には堆肥を積極的に斡旋し、また施肥の省力化も兼ねて作物ごとにＪＡ独自の有機質配合肥料を作り、有機栽培に取り組みやすい環境を整備いたしました。

その後、昭和 53 年からＪＡ職員が施設土壌の土作りの助人作業に出役。7～8月ハウス内に作物が無い時期を対象に、暑いハウスの中でトレンチャーによる深耕、堆肥の深層施肥、暗渠排水工事、緑肥作物のすきこみ等の作業に生産者と一緒に汗を流しました。

そして、農業だけが疎外感を受けた感のあるバブル期、財テクという活字が新聞、雑誌に躍る中『農家の財テクは土作り。土は汗をかいた分だけ必ず恩返し。』という内容の横断幕を設置して、いつの時代でも農業の基本は土作りである事を常に訴え続けてきました。

また、間違った方向に土作りが行かないように、毎年 1,500 点以上の土壌分析を実施して、その成果も確認しています。

現在、いろいろな民間農法、微生物農法等が花盛りの時代、これに対しても柔軟に対応して伝統のある館林の堆肥有機栽培を今後も進めていきます。

また、減農薬については、各作物の取り組みの中で紹介していますが、害虫類に対する捕虫資材等も積極的に導入しています。それでも農薬には頼らなければならない場合には、適正農薬基準を厳守した中で薬剤散布を行なっています。

今後も、館林の産地は有機栽培、減農薬栽培としての完成度の高い野菜栽培を目指して生産者と共に努力していきます。